

平成 30 年度 大台ヶ原自然再生推進委員会  
生物多様性（種多様性・相互関係）ワーキンググループ（第 1 回）  
議事概要

1. 開催日時

平成 31 年 1 月 24 日（木）10:00～12:30

2. 開催場所

株式会社 環境総合テクノス 会議場（4F）

3. 出席者

【委員】

氏 名	所 属	役 職	備 考
井上 龍一	奈良教育大学附属小学校	教諭	欠席
野間 直彦	滋賀県立大学	准教授	欠席
前田 喜四雄	奈良教育大学	名誉教授	欠席
松井 淳	奈良教育大学教育学部	教授	欠席
村上 興正	元京都大学理学研究科	講師	
揉井 千代子	日本野鳥の会奈良支部	幹事	
横田 岳人	龍谷大学理工学部	准教授	

※五十音順

### 【オブザーバー】

所 属	役 職	氏 名	備 考
一般財団法人 自然環境研究センター	主席研究員	千葉かおり	
	研究員	中田 靖彦	
株式会社環境総合テクノス	マネジャー	樋口 高志	
	リーダー	樋口 香代	

### 【事務局】

所 属		氏 名
近畿地方環境事務所	国立公園課長	榎本 和久
	野生生物課長	澤志 泰正
	自然再生企画官	竹下 守昭
	野生生物課 野生鳥獣感染対策専門官	戸田 博史
	吉野自然保護官事務所 自然保護官	関 貴史
株式会社 応用生物	主任研究員	草加 速太
	研究員	稲田 敏昭

## 4. 議事内容

- (1) 持続可能な利用の推進に関する調査・検討について
- (2) 自然再生事業全体の成果を評価するための調査・検討について
- (3) 生物多様性の保全・再生に関する調査について

## 5. 議事概要

### (1) 持続可能な利用の推進に関する調査・検討について

- ・西大台の希少植物について盗採の可能性はなかったということだが、今年の調査時期はいつか。(委員)  
→調査時期は発注の加減で、本年度は9月6日～19日。昨年は7月26日～9月14日、例年よりは遅い。ただし、これらの着生植物は9月でも地上部があるため、調査時期が遅かったことで見られなかったという可能性は低いと思う。報告書では「今回の調査の範囲では、明らかな盗採、盗掘の痕は確認できなかった。」という記載とする。(事務局)
- 西大台は利用調整区域であり、利用者はレクチャーを受けて入る。また、巡視員が毎日見回りをを行い、早朝とか夜間は難しいが、怪しい人がいた場合は報告するシステムになっている。(事務局)
- ・本年度の西大台の入山者数の減少について、そのまま見ると減ったように思うが、平成30年の減少は台風の影響も考えられる。入山者数は、独り歩きすると困る。ここは慎重な表現にした方がいい。(委員)  
→本年度の入山者の減少については、大手の観光会社が西大台から手を引いたということも聞いている。そのほか、山間部の天候不良や西大台の魅力(植生が回復していないなど)の減少、採算ベースが合わないのか、我々の方では詳細を把握していないが、そのようなことも一つの要因として考えている(事務局)
- ・複線化の解消という言い方については定義を付けて示す必要がある。複線化の解消、完全な解消は難しい。「植生が回復した」をもって完全に解消したとし、そういった定義づけでまとめるべき。(委員)
- ・洗掘については対策するのが問題。大台は雨が多い。今後、最低限の洗掘を止める対策について考える必要がある。(委員)

### (2) 自然再生事業全体の成果を評価するための調査・検討について

- ・植物の開花結実状況は巡視員の情報なども取り入れたらどうか。(委員)  
→巡視員等の情報は精度管理を含めて、利活用していく方向で検討する。(事務局)
- ・積雪深データはニホンジカの分布に影響するため欲しい。雪が少ないと越冬地での死亡率も低くなる。(委員)

### (3) 生物多様性の保全・再生に関する調査について

- ・生物種リストについて、標本の有無は記載できないか。(委員)  
→当該リストは標本を採って網羅したものではなく、あくまでこれまでの成果を一定の基準で取りまとめたものである。学術的には厳密にする必要があるが、調査で確認したものを、生物多様性を考慮し、母集団的な規模でまとめている。(事務局)
- ・平成29(2018)年はコマドリの目撃情報が減少している。昨年度と比べて調査者はどう変化したか。コマドリの生息が減少したのか、調査者によって変化したのか、今後統計的に処理し、継続的に調査を進めていくためには、その辺を検討する必要がある。(委員)

以上